

7



日本
国語
大辞典

くれ-こま



日本國語大辭典

第七卷

編集 日本大辭典刊行会
発行 小学館

日本国語大辞典 第七卷

昭和四十九年一月十日 第一版第一刷発行 ©
昭和五十五年七月一日 第一版第六刷発行

編集 日本大辞典刊行会

発行者 相 賀 徹 夫

印刷者 小 林 清

発行所 株式会社 小 学 館

東京都千代田区一ツ橋二一三一一
〔郵便番号〕一〇〇二〔振替〕東京八二〇〇〇

一造本には注意しておりますが、万一落丁・乱丁などの不良品の場合は、おとりかえいたします。

こと(り)して縫工女(きぬぬひめ)を求(ま)く。『語源』呉の国、あるいは広く中国から伝来したもので、ないは伝来したと伝えられるものに冠していう語。「呉織(くれは)は」とり、「呉来(くれが)く」とり、「呉竹(くれたけ)」など。『國語』(1)日本から見て日の没する国、すなわちクレ(暮)の国という意から(『説史百話』)

喜田貞吉・神代史の新研究(白鳥庫吉)。②文采の意の朝鮮語クルの転呼(大言海)。③古く呉国人は朝鮮を経て来朝していたところからカラ(尊)と称せられており、クレはそれが転じた語(『日鮮同祖論』金沢三郎)。④コリ(高麗)の転語(『愚雑俎』)。⑤異国からクル来(来)という意から(『関秘録』)。⑥高麗の久礼波、久礼志の二人を指して呉国へ行ったという(『応神紀』の記録から、クレはクレハ(久礼波)、クレシ(久礼志)のクレ(和訓栞)。『國語』は『書』(2)今史(余之)

くれの綾(あや) 中国の呉地方から産する綾。また、中国産の綾。『説本・雨月物語』蛇性の姫(此床の上に輝々(きらきら)しき物あり。人々恐る恐るいきて見るに、猶錦(こまに)しき、呉(くれ)の綾(あや)。倭文(しづり)、縹(かとり)くれの楽(がく) ぐれが(呉楽)くれの鼓(つづみ) 「ぐれが(呉鼓)に同じ。くれの舞(まい) 呉楽(くれが)の舞。『書紀』推古二年(是歲)國書寮本訓(呉)に字びて伎楽舞(タレノまひ)を得たり

くれの真刀(まさひ) 中国から渡来した立派な太刀。『書紀』推古二年(正月)歌謡(馬)ならば日向(むかひ)の駒(うま)太刀ならば勾(く)能(な)摩(ま)差(さ)比(ひ)(タレノまひ)を得たり

くれ【呉】(呉) 姓氏の一つ。『國語』(2)くれ【あや】と【呉文】統計学者。東京出身。慶応義塾に学ぶ。内務省、農商務省などで統計事務を担当。東京専門学校、慶応義塾などの教授。の内閣統計局審査官。著に『統計詳説』理論統計学など。嘉永四(大正七年(一八五二—一九一八))

くれけん【呉建】医学者。医博。東京帝国大学卒。ドイツ留学後、九州帝国大学、東京帝国大学の教授。心臓病、神経痛の研究とその治療にあたる。明治一六(昭和一年(一八八三—一九〇))

くれ【某】(代名) 不定称の人名代名詞。「何」という語と並べて用い、名を知らない人、それと定めない人、または名がわかっていてもぼかしている場合に使う。事物にも使用する。「くれがし」なにくれと熟

しても用いられる。『源氏』乙女「今の世にまことしう伝へたる人をさへ待たずなりになり。なにのみにくれの源氏などかぞへ給ひて。』名語記「五」なにくれ、かくれのくれ。よろづの事也」(『國語』コレ「此」またはカレ「彼の転(大言海)。

くれ【名】(ぐりはまの転(ぐれはまの略)) ①まともな道からされること。また、それた者。『雑俳』伊勢冠付朝(へりのぐれ、化されさふなまばたけ)『歌舞伎・櫻石尊藤五立(ほんに娘で氣を採むといへば、おいらが帳場の邪魔をする、どこのぐれだか女の雲の) ②盗みなどの悪事をはたらくこと。また、その者。『歌舞伎・桜石尊藤五立(二幕)』そして北八、てめえ小盗みを廃せ。ぐれの癖が止まないとぞ。『歌舞伎・霜夜鐘十字辻(五幕)小遣銭に困る所から明果を脱して盗みを初め、遂にやあ悪徒(タレ)の仲間へ這入り。』③江戸時代、若い女を雲助仲間という

『歌舞伎・蝶山崎踊(序幕)今爰(ここ)へ来た侍ひが云ふを聞けば、若い女を地蔵堂へ、待たせて置いたと云つたが、そいつは好いぐれだ。』④ぐれやど」の略。『歌舞伎・玉藻前御園公服(四立)オオ、岩蔵が云ふ通り、大臣おとどさんのぐれを尋ねる事だ。』⑤盗人・てきや仲間などの隠語。⑥不良青少年をいう。『隠語構成様式并其語集』⑦不良少年喜二(三)その辺一帯を「何々」組の何々といふやうなダレ(不良)が横行してゐた。『浮浪者をいう。『隠語輯覧』(の)物事のくいちがうことをいう。『隠語輯覧』

⑧仕事に精通することをいう。『特殊語百科辞典』⑨⑩無類。ならずもの。徳島県805 ⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

くれが来る 食い違いが生じる。予想が狂う。『浄瑠璃・釜淵双段(上)』どさくさまぎれ夕まぐれ、ぐれの来ぬちサア来いと、走り女夫が手を引いて

『歌舞伎・幼稚子敵討(三)後日の詮議を思ふて、寸分違はぬ買物、跡へ入置たに仍て、今日迄ぐれが来ぬれ。』『酒落本』傾城はなし「みやこんやはいだぶぐれが来たな。竹格子なら覗くと進てこういうちゃおかかいてゐてものにはりがあるなア」

ぐれになる まともな道からされる。墮落する。『歌舞伎・曾我梅菊念力弦(三立)』錢箱のくすね錢で、屋体世の買ひ喰ひ略ぐれにならねえ其うち、浪花節が仲間へ無心に来い。くれ【名】(浪花節をいう。てきや・露天商人仲間の隠語。『隠語構成様式并其語集』

くれ【あい】(あ)【暮合暮相】(名) ①日の暮れようとす頃。夕暮れ時。入相(いりあい)。夕方。日暮れ時。『三河物語』(八代)広忠「七つ時分寄(より)行、暮(タレ)相に成ければ、御門之かぎを渡させ給へ」と云ふ。『歌舞伎・鳴神』それじゃといふて、山道を暮合(タレ

アヒ)かけて、どふア行れるものか。『化銀杏(泉鏡花)二暮合(タレ)アヒ』ではあるし、亡くなった姉さんの幽霊かと思つた。②「しんと寺中に暮合(かひびき)の鐘」智恵くらべ「しんと寺中に暮合(かひびき)伊豆八丈島30 熊本県938 (くれや)熊本県938 (くれあ)くりや(熊本分布相)クレヤイ(鳥取) ③くれあいの鐘(かね) 「くれ(暮)の鐘に同じ。『仮名草子』根の介上「やうやうくれあいの鐘も今やと思ふ時分)」

クレアチン(名)(英 creatine) 脊椎動物の筋肉に多く含まれる一種のアミノ酸。多くはクレアチンリン酸の形で存在し、筋肉収縮のためのエネルギー貯蔵の役割をする。『國語』(2) グラム(Thomas Graham トマス) イギリスの化学者。研究業績は基礎化学から応用まで多岐であるが、塩類の組成の決定や、また気体の拡散に関する「グラムの法則」を発見、化学の発展に尽くした。『名著(化学綱要)』など。一八〇五—一六九(『國語』(2) グラムの法則(ほうそく) グラムが発見した法則。①容器中の気体が小穴から流出する速度は、気体の密度の平方根に逆比例し、容器の内外の圧力差の平方根に比例する)という法則。②①の関係から導かれる、気体および液体の拡散速度は、その分子量の大きいものほど小さくなる傾向がある、という法則。『國語』(2) グラム(ホーン) (名) (2) ぐれあるく(「自カ四」悪事をしまわる。『歌舞伎・恋開鶴飼(四幕)道中筋をぐれ歩き、人の難儀になる奴と知れち、あ助けで置れねえ。打殺すから覚悟しろ。』 『國語』(2) (2) クレアチス(Kreatinis) 古代ギリシアの哲学者。アソスの人。師ゼノンのあとを継ぎ、ストア派の学頭となる。意志の力に価値をおいて、あらゆる徳の源泉とした。また哲学を弁証学、修辭学、政治学、倫理学、自然科学、神学の六部門に分けた。著作に「ゼウス讚歌。(BC三三三—二二二頃) 『國語』(2) クレイステス(Kleisthenes) 紀元前六世紀後半のアテナイの政治家。旧来の四部族制を廢して一〇部族制とし、またオストラキスモスの制度を定めて、アテナイ民主政治の基礎を築いた。クリステネス。生没年不詳。『國語』(2) くれいそぐ(暮色)【自カ四】夕方を待ち遠しく思う。また、日没が心あわたたしく感じられる。『右京大夫集』いくつかひきかへらむ七ツのくれいそぐ問のころつかひきか。『國語』(2) くれいた【板板】(名) 轉縁(くれえん)に用いる板。くれいば【名】(英 straw) 影版用具の一つ。先がとがった鋼鉄の彫刀。主に鋼銅の影版に用いる。バリー。『國語』(2) くれいも(名) (因) 植物。①さといも(里芋)。岩手県釜石市平田30 ②つくねいも(捏芋)。宮城県一部04 ③きくいも。宮城県一部04

くれいはらぬ(連語) 因動詞の連用形をうけて、それには及ばないという意を示す。「そんなに泣きぐれいらん」しぐれはいらん(するには及ばない)熊本県一部01 鹿兒島県肝原郡高山779 くれいん(名)(英 Crane スチーブン) アメリカの小説家。代表作「赤色武勳章」はアメリカ自然主義文学の先駆的作品。一八七二—一九〇(『國語』(2) くれうち【塊打】(名) 突き起こした田畑の土塊を塊割(くれわり)などでたたいて砕くこと。『因] 土のかたまりを打ち砕く農具。埼玉県秩父242 ②土のかたまりを打ち砕く農具。埼玉県秩父242 (くれぶち) 群馬県多野郡240 『國語』(2) くれうつる(暮移)【自カ四】日暮れ時になる。暮れかかる。『風雅(秋上)五〇六』くれうつるまがきの花は見えわが霧に隔てぬ小牡鹿の聲(藤原為秀) くれうり【博売】(名) 博を売ること。また、その人。『米沢本沙石集(五本)七』昨日のは塩うり、此は博(タレ)うりにて候に。『隨筆・嬉遊笑覽(上)』伊豆の山寺の僧の物かたりに博売(くれ)や召候とて馬につけて来るあり

クレイ(名)(英 clay) ①クレイ射撃の標的。石灰とビッチを混ぜて作った円盤状のもの。クレイ・ピジョン。『寝園(横光利三)』鳥を真似た素焼のクレイが鳥のように飛び立ち出す。スタンドの射手たちは、夫々自分のそのクレイを散弾で撃ち落とすのだ。②「クレイ(ヤギ)射撃」の略。『國語』(2) クレイ(Paul Klee) ドイツの画家。スイスで生まれ。自己の心情に根ざした一種具体的な形象による抽象画を多く描き、ピカソ、マチスらとともに二十世紀の巨匠の一人となった。(一八七九—一九四〇) 『國語』(2) グレー(名)(英 grey) (グレイ) 灰色。鼠色。『最上川(外村繁一)』薄いグレイのスカート着けた素子が来た。『散りゆく花の末に(中山義秀)』ダブルボタンのグレイの背広(服)。『國語』(2) グレー(Sir Edward Grey サイエドワード) イギリスの政治家。外相。第一次世界大戦前から戦中にかけて、イギリス外交を指導。三国協定を推進し、またドイツのベルギー中立侵犯に対して対独宣戦を行なった。(一八六二—一九三三) (D) (Charles Grey) チャールズ) イギリスの政治家。一八三〇年首相に就任してホイッグ党内閣を組織し、一八三四年選挙法改正案の成立に成功した。(一七六四—一八四五) (D) (Thomas Gray トマス) イギリスの詩人。古典的な、格調の高い文体で、憂愁の色濃く詩を残し、ロマン派の先駆者となる。「墓畔の哀歌」は「新体詩抄」に訳出された。(一七二一—一七九一) 『國語』(2)

くれいも(名) (因) 植物。①さといも(里芋)。岩手県釜石市平田30 ②つくねいも(捏芋)。宮城県一部04 ③きくいも。宮城県一部04 くれいはらぬ(連語) 因動詞の連用形をうけて、それには及ばないという意を示す。「そんなに泣きぐれいらん」しぐれはいらん(するには及ばない)熊本県一部01 鹿兒島県肝原郡高山779 くれいん(名)(英 Crane スチーブン) アメリカの小説家。代表作「赤色武勳章」はアメリカ自然主義文学の先駆的作品。一八七二—一九〇(『國語』(2) くれうち【塊打】(名) 突き起こした田畑の土塊を塊割(くれわり)などでたたいて砕くこと。『因] 土のかたまりを打ち砕く農具。埼玉県秩父242 ②土のかたまりを打ち砕く農具。埼玉県秩父242 (くれぶち) 群馬県多野郡240 『國語』(2) くれうつる(暮移)【自カ四】日暮れ時になる。暮れかかる。『風雅(秋上)五〇六』くれうつるまがきの花は見えわが霧に隔てぬ小牡鹿の聲(藤原為秀) くれうり【博売】(名) 博を売ること。また、その人。『米沢本沙石集(五本)七』昨日のは塩うり、此は博(タレ)うりにて候に。『隨筆・嬉遊笑覽(上)』伊豆の山寺の僧の物かたりに博売(くれ)や召候とて馬につけて来るあり

クレールコート【名】(clay court) 表面を粘土または赤土で作ったテニスのコート。【閉園】

クレージー【形動】(crazy) 熱狂的なさま。気違いじみているさま。*あめりか物語へ永井荷風、市俄古の二日「日本のきものは綺麗ですね。私は日本の事だと云へば夢中(クレージー)ですよ」【閉園】

クレールシャギ【名】(clair shag) 素焼きの皿、または、石灰とビッチで作った皿を空中に投げ上げたところをねらってライフル銃で射ちくたくスポーツ。クレール。【閉園】

クレールズ【名】(clair glass) 魚を冷凍して保存する際に、乾燥を防ぐために魚体のまわりにつくる氷の被膜。【閉園】

クレードラー【名】(clair drader) 建設機械の一つ。土かき板(ブレード)を備えた地ならし、整地工用の機械。エンジンをもつ自走式のもの、トラクターに牽引されるものがある。【閉園】

クレート【語素】(clair) 偉大な、すぐれた、または、大きい、などの意を表わす。*若い人へ石坂洋次郎「上二二」怒号と悲鳴と煤煙との中にクレート大阪は常に忙し動くに居る」【閉園】

クレートン【名】(clair ton) 等級。階級。【閉園】

グレートノールト【名】(great north) グレートノールトは Great Salt) アメリカ合衆国、ユタ州の北部にある塩湖。乾燥地にあるうへ流出河川がないために塩分の濃度は三〇パーセントに達する。【閉園】

グレートデン【名】(great dane) (グレートデン) イスの一種。デンマーク原産で、マスタフ系とグレートハウンド系との混血種。体は大きく肩高七五センチ以上になる。体色は白に黒のぶち、黒茶などがある。【閉園】

グレートバリアリーフ【名】(great barrier reef) オーストラリア東北部の沿岸にある世界最大のサンゴ礁。【閉園】

グレートブリテン【名】(great britain) (グレートブリテン) Great Britain) イギリスの主要部分を構成するイギリス諸島の主島。イングランド、ウェールズ、スコットランドに大別される。ヨーロッパ最大の島。【閉園】

グレートプレーンズ【名】(great plains) 北アメリカ中西部の大平原。大部分が放牧地で、コムギ、トウモロコシの栽培が盛ん。石油、天然ガス、石炭の世界的産地。大平原。【閉園】

グレイハウンド【名】(gray hound) (グレイハウンド) イスの一種。エジプト原産。肩高七〇センチほど。やせ型で腰が細く、四肢や首が長い。耳は小さく、後方へ垂れ、尾は細長い。体毛は短く、淡褐色、灰白色など。視力と走力にすぐれ、狩猟に用いられる。*社会百面相「内田魯庵」犬物語「英吉利イギリスのグレイハウンド」や露西亜(ロシア)「ハウンド」は体格も立派で中々見栄がするが」*寝

園へ横光利一「すると、鞭のやうにすんなりと挽たわんだ一匹のグレイハウンドが、むっくりと庭石の影から起き上った」*愛の渇きへ三島由紀夫「二」大きなグレイハウンドを連れて滞在してゐた独乙「ドイッ」人の家族がゐた」【閉園】

クレール【名】(clair) (1) 布の表面に縮み(ちりめん)風のある織物の総称。縞(よ)りの強い糸を使って織ったもので、糸の取縮を利用してしぼを出す。縮地綿布。ちぢみ。*牡蠣へ林美子「周吉がへ略々クレールの襦袢一つで」(2) 「クレール」の略。【閉園】

クレール【名】(clair) (3) 「クレール」の略。【閉園】

グレイプ【名】(grape) ブドウ。ジュースなどの種類名として用いられることが多い。【閉園】

クレール【名】(clair) (注) crêpe (クレープ) 夏用のちぢみの下着のシャツ。クレール。*季々夏*地底の歌平林たい子「御用「白い官服に上衣をぬいだた」レップシャツで佩剣を外した安直な変装だった」【閉園】

グレイプジュース【名】(grape juice) ブドウのジュース。未発酵のブドウのしぼり汁。*季々夏*若いセルスマンの恋へ舟橋聖二「二」若い女中がグレイプジュースを運んできた」*青春怪談獅子文六「汗」あたしは、ハンバーク・サンドウィッチと、グレイプジュースにでも、しようかな」【閉園】

クレール【名】(clair) (注) crêpe de Chine (シナのクレール) の意。経(たていと)に生糸、緯(よこいと)に縫(ぬい)りの強い生糸二本を交互に用いた平織物。婦人服地、裏地に使用。フランス縮緬(ちりめん)。デシン。*友田と松永の話へ谷崎潤一郎「三」燃えたつやうなクレール・ド・シンの緋の服を纏ったキャザリを」*寝園へ横光利一「三角に折った灰色と洗朱の染分けになったクレール・デシンをくるりと首に巻きつけ」【閉園】

グレイプフルーツ【名】(grape fruit) ミカン科の常緑小高木。西インド諸島のバルバドス島原産で、主としてアメリカ合衆国のフロリダ、カリフォルニアなどで栽培される。果実は径一〇センチほどで、果肉は柔らかい。さわやかな風味と苦味があり、生食やジュースに用いられる。小枝に三十余個の果実がつくさまがグレイプ(ブドウ)に似ているのでこの名があるといわれる。【閉園】

クレール【名】(clair) (注) crepe paper (縮緬(ちりめん)のようなしわを寄せた紙。造花や紙ナプキンなどに用いられる。ちりめん紙。クレール。【閉園】

クレール【名】(clair) (1) 貿易などの商品取引で、取引の相手が品質不完全、着荷不足、損傷その他の契約違反をした場合、相手方に対して損害賠償の請求

や苦情を申し立てること。【閉園】

苦情。【閉園】

クレール【名】(clair) 「クリーム」に同じ。*ふらんす物語へ永井荷風「雲」コロン水、顔へ塗るクレール。【閉園】

クレール【名】(clair) (注) crêpe (クレープ) 夏用のちぢみの下着のシャツ。クレール。*季々夏*地底の歌平林たい子「御用「白い官服に上衣をぬいだた」レップシャツで佩剣を外した安直な変装だった」【閉園】

クレール【名】(clair) (注) crêpe de Chine (シナのクレール) の意。経(たていと)に生糸、緯(よこいと)に縫(ぬい)りの強い生糸二本を交互に用いた平織物。婦人服地、裏地に使用。フランス縮緬(ちりめん)。デシン。*友田と松永の話へ谷崎潤一郎「三」燃えたつやうなクレール・ド・シンの緋の服を纏ったキャザリを」*寝園へ横光利一「三角に折った灰色と洗朱の染分けになったクレール・デシンをくるりと首に巻きつけ」【閉園】

グレイプフルーツ【名】(grape fruit) ミカン科の常緑小高木。西インド諸島のバルバドス島原産で、主としてアメリカ合衆国のフロリダ、カリフォルニアなどで栽培される。果実は径一〇センチほどで、果肉は柔らかい。さわやかな風味と苦味があり、生食やジュースに用いられる。小枝に三十余個の果実がつくさまがグレイプ(ブドウ)に似ているのでこの名があるといわれる。【閉園】

クレール【名】(clair) (注) crepe paper (縮緬(ちりめん)のようなしわを寄せた紙。造花や紙ナプキンなどに用いられる。ちりめん紙。クレール。【閉園】

クレール【名】(clair) (1) 貿易などの商品取引で、取引の相手が品質不完全、着荷不足、損傷その他の契約違反をした場合、相手方に対して損害賠償の請求

や苦情を申し立てること。【閉園】

苦情。【閉園】

クレール【名】(clair) 「クリーム」に同じ。*ふらんす物語へ永井荷風「雲」コロン水、顔へ塗るクレール。【閉園】

クレール【名】(clair) (注) crêpe (クレープ) 夏用のちぢみの下着のシャツ。クレール。*季々夏*地底の歌平林たい子「御用「白い官服に上衣をぬいだた」レップシャツで佩剣を外した安直な変装だった」【閉園】

クレール【名】(clair) (注) crêpe de Chine (シナのクレール) の意。経(たていと)に生糸、緯(よこいと)に縫(ぬい)りの強い生糸二本を交互に用いた平織物。婦人服地、裏地に使用。フランス縮緬(ちりめん)。デシン。*友田と松永の話へ谷崎潤一郎「三」燃えたつやうなクレール・ド・シンの緋の服を纏ったキャザリを」*寝園へ横光利一「三角に折った灰色と洗朱の染分けになったクレール・デシンをくるりと首に巻きつけ」【閉園】

グレイプフルーツ【名】(grape fruit) ミカン科の常緑小高木。西インド諸島のバルバドス島原産で、主としてアメリカ合衆国のフロリダ、カリフォルニアなどで栽培される。果実は径一〇センチほどで、果肉は柔らかい。さわやかな風味と苦味があり、生食やジュースに用いられる。小枝に三十余個の果実がつくさまがグレイプ(ブドウ)に似ているのでこの名があるといわれる。【閉園】

または淡黄色の透明液で、光を強く屈折し、強い刺激性のにおいがある。劇薬。殺菌、消毒、防腐、祛痰きよたん・鎮咳剤。胃腸の異常発酵、慢性気管支炎などに用いられる。*仰臥漫録へ正岡子規「一」服薬はクレールソート、昼飯晩飯後各三粒。*青春と泥濘へ火野葦平「五」薬もあつてもヨリチンとクレールソートと若干の注射薬があるきり」【閉園】

クレール【名】(clair) (注) crêpe (クレープ) 夏用のちぢみの下着のシャツ。クレール。*季々夏*地底の歌平林たい子「御用「白い官服に上衣をぬいだた」レップシャツで佩剣を外した安直な変装だった」【閉園】

クレール【名】(clair) (注) crêpe de Chine (シナのクレール) の意。経(たていと)に生糸、緯(よこいと)に縫(ぬい)りの強い生糸二本を交互に用いた平織物。婦人服地、裏地に使用。フランス縮緬(ちりめん)。デシン。*友田と松永の話へ谷崎潤一郎「三」燃えたつやうなクレール・ド・シンの緋の服を纏ったキャザリを」*寝園へ横光利一「三角に折った灰色と洗朱の染分けになったクレール・デシンをくるりと首に巻きつけ」【閉園】

グレイプフルーツ【名】(grape fruit) ミカン科の常緑小高木。西インド諸島のバルバドス島原産で、主としてアメリカ合衆国のフロリダ、カリフォルニアなどで栽培される。果実は径一〇センチほどで、果肉は柔らかい。さわやかな風味と苦味があり、生食やジュースに用いられる。小枝に三十余個の果実がつくさまがグレイプ(ブドウ)に似ているのでこの名があるといわれる。【閉園】

クレール【名】(clair) (注) crepe paper (縮緬(ちりめん)のようなしわを寄せた紙。造花や紙ナプキンなどに用いられる。ちりめん紙。クレール。【閉園】

クレール【名】(clair) (1) 貿易などの商品取引で、取引の相手が品質不完全、着荷不足、損傷その他の契約違反をした場合、相手方に対して損害賠償の請求

や苦情を申し立てること。【閉園】

苦情。【閉園】

クレール【名】(clair) 「クリーム」に同じ。*ふらんす物語へ永井荷風「雲」コロン水、顔へ塗るクレール。【閉園】

クレール【名】(clair) (注) crêpe (クレープ) 夏用のちぢみの下着のシャツ。クレール。*季々夏*地底の歌平林たい子「御用「白い官服に上衣をぬいだた」レップシャツで佩剣を外した安直な変装だった」【閉園】

クレール【名】(clair) (注) crêpe de Chine (シナのクレール) の意。経(たていと)に生糸、緯(よこいと)に縫(ぬい)りの強い生糸二本を交互に用いた平織物。婦人服地、裏地に使用。フランス縮緬(ちりめん)。デシン。*友田と松永の話へ谷崎潤一郎「三」燃えたつやうなクレール・ド・シンの緋の服を纏ったキャザリを」*寝園へ横光利一「三角に折った灰色と洗朱の染分けになったクレール・デシンをくるりと首に巻きつけ」【閉園】

グレイプフルーツ【名】(grape fruit) ミカン科の常緑小高木。西インド諸島のバルバドス島原産で、主としてアメリカ合衆国のフロリダ、カリフォルニアなどで栽培される。果実は径一〇センチほどで、果肉は柔らかい。さわやかな風味と苦味があり、生食やジュースに用いられる。小枝に三十余個の果実がつくさまがグレイプ(ブドウ)に似ているのでこの名があるといわれる。【閉園】

クレール【名】(clair) (注) crepe paper (縮緬(ちりめん)のようなしわを寄せた紙。造花や紙ナプキンなどに用いられる。ちりめん紙。クレール。【閉園】

コなどの支配をうけ、一九一三年ギリシアに合併さ
れた。クノッソス宮殿など多くの遺跡がある。〔閉
園〕

クレタぶらめい「文明」名 紀元前二〇〇〇年頃
から紀元前一四〇〇年頃まで地中海のクレタ島で栄
えた文明。エーゲ文明の中・後期にあたる。流麗で多
彩な陶器、クノッソス宮殿の壁画などに有名。オリ
エント文明の影響が見られ、ギリシア文化の先がけ
をなす。〔閉園〕クレタブレンメイ

クレタもじ「文字」名 ギリシア最古の文字。紀元
前二一〇〇年から紀元前一五〇〇年頃用いられた。
絵文字とA・B二種の線文字とがあり、線文字Bだけ
が解説されている。ミニア文字。〔閉園〕

くれち「塊打」名 「くれち」(塊打)の変化した語
の根株についている土のかたまりをうちまくる農
具。くだき。〔閉園〕

クレチアンド・トロワ (Chrétien de Troyes) 一二世
紀のフランスの物語作家。アーサー王伝説に基づい
て種々の恋愛冒険の韻文詩を書き、宮廷風騎士道物
語に新生面を開く。生没年不詳。

ぐれちがひ「ちがひ」名 食い違うこと。食い違い。
現代小説の描写法。宮野鴨「思想と材料とが融和
流合してあるから、自己と作品中の人生とにぐれ違
ひが少ない。〔閉園〕グレチガイ

クレチンびょう「ヒキウ」病名「クレチン」は、
「巨」先天的な甲状腺機能の不全により、知能や体の
発育がいちじるしく遅れる病気。白痴または低能で、
生殖器の発育もきわめて悪い。〔閉園〕クレチンビョ
ー

ぐれつ「愚劣」名(形動) おろかで、能力が劣って
いること。ばからしくて、何のねうちもないこと。
くだらないこと。*日葡辞書(Christus)「ヒ
ト」金色夜叉「尾崎紅葉」四「全く天性愚劣の致
す所と、自ら恨むよりは無いので、吾輩は猫である
夏目漱石」教師としては口にすべからざる愚劣
(タレレ)の考であるが、漢書谷永伝、永与「譚書
曰、略々永等愚劣、不能褒揚万分」

ぐれつ「かえす」かへす「自サ四」非常に怒る。機嫌を
悪くする。*歌舞伎「紋辰五人男」序幕「番頭がお前に
逢ひたいとて、ぐれつ返(かへ)して探してあますワ
くれつ」かた「暮方」名 ①日の暮れるころ。夕方
くれがた。*源氏「乙女」辰の日のくれつかた遣はず
御文(ふみ)のうち、思ひやるべし。*浜松中納言「
くれつつかた頃の守を召して、御文(ふみ)給はせたら
り」②年や季節などの終わりに近いころ。*源氏「
若菜下」年のくれつつかたは、対などにはいそがしく、
こなたかなたの御宮(いと)なみに。*徒然草「四三
「春の暮つた、のどやかに艶(えん)なる空に」

ぐれつ「く」自カ四 揺れうごく。ぐらぐらする。ぐ
らつく。*俳諧「当流籠抜」くれつて箸にからからぬ
妹背山「百九」姥おじやいなく空に泣らぬ鬼貫」
*雑俳「唐子おどり」水桶の尼の天窗がぐれつて
*浄瑠璃「大内裏大友真鳥」三「逃に」げて見たり戻つ
たり、心のぐれつて丸太舟

くれつ「ける」【擲付】「他カ下」なぐる。打擲(ちや
うちやく)する。*物類呼「五」打擲すといふ事を豊
前にて、くれつてると云

くれつ「さい」【呉】連語 因園相手に物事を頼むこ
とば。ください。大分県日田市

クレッシェンド 音楽で音を次第に強めること。また、
それを表わす記号。ささまたは「」と書く。*デク
レッシェンド。*冷笑「永井荷風」二「一齊の絃楽器
は声低く震動し初めて、次第に高まるクレッシェン
ドと次第に消え行くデミヌェンドの抑揚に」。*若い人
「石坂洋次郎」上「八」上衣を通して私の乳房にまで感
じられた熱い嘆息がユキ子さんの物も云へない狂喜
を強調するクレッシェンド」にも話つて居ました」

くれつ「ち」【塊植】名 「くれわり(塊割)」に同じ。*俳
諧「父の終焉日記」五月一日「昌の門をやくくなり
と、人々は皆、鎌提(さげ)塊植もて門を出づれば」
くれつ「つみ」【鼓】名 雅楽の呉棊(くれが)が
伎楽に用いた鼓。長いひもをつけて腰につけ、両
手で打ち鳴らす。呉棊
とともに廃絶した。よ

くれつ「つみ」【呉鼓師】名 雅楽寮の職員の一
つ。呉鼓を教えることをつかさどる。*令義解「職
員」雅楽寮寮「腰鼓師二人入掌、教腰鼓生さ。ぐる
ぐれつ」と(因園)大きく急回転するさま。ぐる
と。*くれつとうしろを向いた「秋田県鹿角郡(ぐ
りい)つ」熊本37) ②物の全体のさま。ぐれつとどら
れてしまった「青森県南部地方19
クレップ」名 ①物をくくれる人。*虎寛本狂言、
惚八「出家の時分には齋非時のくれても有たれども
*明暗「夏目漱石」二「月給が嫌ひといふよりも、寧
(む)しろ呉(くれ)れ手(て)がなかった程我儘だった」
②(動詞)付いた接続助詞「て」をうけて、その事を
してくる人。*虎寛本狂言「文山立」誰も宿へ知ら
せてくられて有るまい」。*海に生くる人々「葉山嘉

樹二七「私が大切にしないで誰が大切に呉れ手
があらうか」

くれ「やる」【呉】連語 ①物を与えて、遠
くへやる。*落窪「二」さるべき受領あらば、知らず顔
にくてくれてやらんしする物を。②話者が、自分
より身分の低い者、いまいしく思っている者に、物
を与える。取らず。〔因園〕与える。やる。岐阜県加茂
郡02「三重県松阪02」

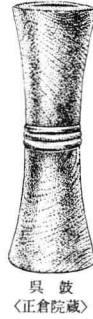
くれ「てん」【暮天】名 暗くなって物が見えなくな
るところからいって。下に否定語を伴って)全然。ま
ったく。かいかくれ。*浮世草子「本朝二十不孝」三四
「悴子せがれは侍たらずむかたも無く、其の日は
我家(わが)いへ)に有りしが、暮天(クレテン)に」行方
(ゆき)がた見えなくなり。*浮世草子「懐硯十五」
「与太夫といふ人、略々九年あとにくれてんに見えざ
る事、つどつどにはなしけるうちに」

くれ「の」【呉床】名 一種の一種。上代、中国
の胡床(こしやう)にならって作ったもの。あぐら。
*延喜式「七」内匠寮「牙床等科櫛博一村」。*十卷本
和名抄「六」牙床 遊仙窟云六尺象牙床八下仕荘反
俗牀字 楊氏漢語抄云牙床 久礼度古云。*輿車図考
上「鳳簾くれば床の名は略略かたは榻よりも長くせ
ば、足も直立せし床なるべきなり」

くれ「とどめ」【樽止】名 屋根の葺板(ふきいた)をと
めるもの。*俳諧「西鶴大句数」一〇「八重葺の花おし
春の樽とどめ 明屋にしたる藤の店かり」*浮世草
子「本朝二十不孝」二「八月廿三日の大風諸木根を
うちかへし、略略板底(いたひさし)も樽止(クレトド
)のみ残りて」*浮世草子「貧人太平記」下「取ふき
の風待つ屋根のまばらなるに、くれとどめ落ちかか
り」

くれ「ない」【紅】名 (呉)くれの藍(あゐ)の
変化した語 ①植物(べ)にはな(紅花)の異名。*季
夏「万葉」一「二八二七」紅(くれ)なみの花にしあ
るに衣手に染めつけ持ちて行くべく思はゆへ作者未
詳」*重訂本草綱目啓蒙「一」隔草「くれなひあへ略
べにはな、くれなひのはな 雲州」②赤く鮮明な
色。紅花の汁で染めだした紅色。脂臘(えんじ)色。
*万葉「一八四一」九久礼祭為(クレンキ)は移るふ
ものそ稼(つる)ばみの、馴れにし衣になほしかめやも
大伴家持」*古今雑体「二〇四四」紅にそめし心も
たのまれず人をあくにはうるもてふなり(よ)み人し
らす」*枕「一」九「あはれはなるもの、隆光が主殿し
の(もり)の助には、青色の襖あを、くれなひの衣、す
りもどろかしたる干干といふ袴を着せて」*大慈恩
寺三藏法師伝承徳三年点八「柳みどり桃紅(クレンキ)
手にして、松青く霧みどりなり」③江戸時代、京都
で染めた紅絹。京紅。*雑俳「柳籠裏」五月二八日「し
わひ所(と)こ)とてくれなひが上手也」*雑俳「柳多留」

二二「紅は全体しいとこで出来」④香の名。伽
羅の一種。香名秘録」〔因園〕植物、べにはな。広島県
比婆郡釜利田 園園(1)クレンキ(呉)藍の約で、呉
国から渡来した藍の意(クレンキ)と字正重録・日
本釈名「東雅 南留別志 関秘録 安斎隨筆・東韻抄・大
言海 増補国語研究」金田一京助。(2)クレンキ(黄
天居)の義(言元梯)。(3)花は紅色で、葉は藍に似ると
ころから、クレンキ(クレンキ)の義(和)和句解。(5)
和訓義解。(4)クロ(愚)クナキの義(和)和句解。(5)
クレンキ(暮)日の義、暮方の日は、格別赤いもので
あるところから(名語記「本朝辞源」田甘冥)。(6)紅
色の意のクレンキは、クレンキの約。クレは「紅
の別音」に、ラ行の諸音を添えた語。アイは染料
の義の「絵」の別音」から(日本語原考「与謝野寛」
〔因園〕今安平安「江戸」〇〇〇〇



呉鼓 正倉院蔵

くれ「ない」【梅】名 梅の花は、紅い。*新古今「春上四一」をられけり紅にはふ梅の花け
さしるたへに雪はふれど(藤原頼道)
くれ「ない」【月】名 出(いだ)したる(お)うぎ
紅の地紙に、月を描いた扇。*曾我物語「六」弁才天
の御事座敷をたばやと思ひければ、くれなひに
月(いだ)したるあふきひらき。*仮名草子「恨の介」
下「語り話りの燈火を、くれなひに月(いだ)したるあ
ふきにて、さつと消え消し」
くれ「ない」【雨】名 花に降りそそぐ雨。美しく
いらしたる。紅雨(こうう)。*相模集「浅みどり春め
づらしく」しほに花の色ますくれなひのあめ
くれ「ない」【行燈】名 甘酒屋の行燈、看板。
白地に紅で甘酒と書いた。*雑俳「柳多留」三三「く
れなひの行燈表見出に」
くれ「ない」【薄襦】名(うすす) 女房の装束または懐
紙などの薄(かさね)の色目の名。上から下へ紅色
を次第に薄く句わしたものを。*蜻蛉上「天延二年
」文とりてかへりたるをみれば、くれなひのうすや
うひとかさねにて、紅梅につけたり。*源氏「浮舟
」くれなひのうすやうに、こまやかに書きたるべ
し」*十訓抄「七」白河法皇雪見御幸小野皇太后宮
事「宮の女房の中に、紅のうすやう着たるが三人
候けるを」。*増鏡「一」さしうすくれなひのうす
やう、おなじ薄様にぞ包まれたんぬる
くれ「ない」【海】名 夕日が映えて赤く見える
海。*浄瑠璃「天神記」二「遙かに見れば、夕陽の影
は残つて、紅クレンキの海を泳ぐは妻の十六夜」
くれ「ない」【梅】名 梅の花は、紅い。*新古今「春上四一」をられけり紅にはふ梅の花け
さしるたへに雪はふれど(藤原頼道)

じ。*宇津保春日詣「おなじき侍従源ただまさ」く
れなるのむめ。春雨の花にふりおく紅にそめてそ
むらし春のさほ姫。*永久百首春「匂ふ香もなつ
かしきかなわきも」が衣に染むる紅のむめ「源忠
房」

くれないの霞(かすみ) 朝日や夕日が映って赤く
見える霞。*土御門院集「くれないのかすみに今朝
にほふらん雪の村の春の初花」。*光悦本語曲「小
塩「あかぬさす日もくれないのかすみか雲か」
くれないの装束(しょうぞく) 成人の朝服の単
(ひとえ)袴などの下着の色目。未成年の赤の濃い
濃色(こきいろ)の装束に対していう。*飴抄「上
三位中將兼長申「慶、或秘記曰、今日始着紅装束
ハ先濃装束也」。*後照念院殿装束抄「改濃装束
着紅装束事。ハ多上階後着之」。(花を末の方
から摘み取って紅へに)をつくる(ところから) 植
物「べにばな紅花」の異名。*万葉一〇一九九
三「外(よそ)のみに見つつ恋なむ紅乃末摘花(く
れなみ)す多つむはな)の色に出でずとも「作者未
詳」。*古今恋一四九六「人しれずおもへばくる
し紅のす多つむ花の色にいでんへよみ人しら
す」

くれないの千入(ちしお) 紅色に、何度も染め上
げること。濃い紅色をいう。*金槐集「雑、くれない
ぬのちしほのまふり山のはに日にいる時の空にぞ
ありける」。*御伽草子「鉢かつき十二ひとへの御
袖、くれないぬのちしほの袴、数の宝物を入られたり
し」。*仮名草子「恨の介上、くれないぬのちしほの袴
を踏みしだへ、肌には何をか召されけん」

くれないの塵(ちり) (紅塵(こうじん)の訓読)
浮世の塵。俗世間の塵。*新撰六帖「一、昔深き緑
の洞はくれないぬのちりの外なるすみかなりけり
」。*藤原家良

くれないの涙(なみだ) ①悲しみのあまり流す
涙。血の涙。*宇津保俊隆「あしたに見てゆふべ
の遅なるほどに、紅のなみだをおとす」。*源
氏「乙女「くれないぬのなみだにふかき袖の色を浅み
どりにや言ひしをるべき」②深く感動して流す
涙。感涙。*宇津保「祭の使「藤原、くれないぬのなみ
だを流して」。*浜松中納言二「中納言の人も聞けり
給へる御文に、もろこしの人々も、この世の人々も
かぎり、くれないぬの涙をながして」③「紅涙」の
訓読み) 女性の流す涙。*平家一八「太宰府落、蘆火
たく屋のいやしきにつけても、女房達つきせぬ物
おもひに紅の涙せきあへば、翠の黛みだれつつ、
其人とも見え給はず」

くれないの匂(におい) 「くれないにおい(紅匂)
」に同じ。*満佐須計装束抄「三、女房の装束のいろ
略くれないぬのはひ略くれないぬのうすやう」

*たまきはる「むらさきのにはひ、くれないぬのは
ひのひとへ、やまぶきのにはひのうらぎぬ」。*増
鏡六「おりる雲くれないぬのはひの消もなき
が、八重に重ねたるを、結びて包まれたり」
くれないの葉(は) (紅葉の訓読み) 紅葉もみ
じ。*相模集「幾しほのみぢふりてかたつた姫
くれないぬのは深く染むらん」

くれないの袴(はかま) 成人女子がつける袴。緋
の袴。*枕四五「げなきもの「下衆(げす)の紅の
はかま着たる。この頃はそれのみぞあめる」。*謡
曲「雲林院」とある花のもとに束帯給へる男、紅の
袴召されたる女性」

くれないの初花(はつはなぞめ) 濃い紅色に染
めること。また、その色。*古今恋四七三三「紅
のはつ花ぞめの色ふかく思ひしころわれわすれ
めやよみ人しらす」

くれないの筆(ふで) 婦人用の軸の赤い筆。転じ
て、男女贈答の恋文。*金葉「恋上三九六「文ばか
りおこせて、いひ絶えにける人の許にいひつかは
しける。ふみそめて思ひかへりし紅の筆のすさび
をいかで見せけむ(小大進)」

くれないの文(ぶん) 軸の赤い筆で書いた手紙。
恋文をいう。*新撰六帖「五、幾かへり染めて色濃
きくれないぬの文見しあとも今は絶えつつ藤原家
良」

くれないの振出(ふりで)の色(いろ) 紅花(べに
ばな)を水に振り出して染めた色。*永久百首「春
紅のふりでの色の岡つじ妹がま袖にあやまた
れつつ藤原仲実」

くれないの峰(みね) 紅葉(もみぢ)などで紅色に
色づいた峰。*大観本語曲「松尾、西ぐれないぬの峰
つづき、さながら四方の錦なれども」

くれないは園生(そのう)に植えても隠(かく)れな
い すぐれた者とはどんなところにあつてもすぐに
人目に立つ意のたとえ。*義経記二「鏡の宿吉次
宿に強盗の入る事「壁に耳、岩に口と云ふ事あり、
くれないぬのはそこに植へても隠れなし」。*謡曲「頼政
「げにや紅は園生に植多ても隠れなし、名のらぬ先
に頼政と、ご覧すること悲しけれ」

くれないは染むるに色(いろ)を増す (紅の染色
は最初は色薄く、何回も染めて濃くするところか
ら) 繰り返して努力することが大切である意のたと
え。*譬喻集「四「紅(クレナキ)は染(ぬ)むるに色
(いろ)を増(ま)す」

くれないいとかたむらさきくれないと「紅糸肩紫」
「名」 鎧(よろい)の威おどしの配色による肩取威
(かたどりおどし)の一種。胸(しころ)や袖の「二
の板に胴の立穿(たてあけ)の部分に紫色とし、他を
すべて紅糸で威したるもの。*光源院殿御衣服記「御
鎧紅糸肩紫」

くれないいろくれないなる「[紅色]「名」赤く鮮明な色。く
れない。*万葉一九四一九「桃の花紅色くれない
ぬのいろ」にほひたる。面輪のうちに「大伴家持」
[園圃(園)之] ①
くれないうすいろくれないなる「[紅薄色]「名」紅の薄い
色。*滿佐須計装束抄「三、六月よりのひとへがさね
すはうくちくれないぬのうすいろ」

くれないうちくれないなる「[紅打]「名」糊ばりをした上
を碇(きぬた)で打った紅色の絹。*弁内侍「建長二年
四月八日くれないぬのうちの色ことに花やかなるに」
*桃花薬染「束帯色目、或は紅打拍一重にても。又紅
打にうす色あこめをかかされても用之」

くれないおどしくれないなる「[紅威]「名」 鎧(よ
ろい)の威毛(おどしげ)の一種。紅色のなめし革で
おどしたものの。緋威(ひおどし)。*吾妻鏡「文治五年
八月一日「因」妓。被召し出件甲之処。先紅威也。
召寄御前「覽」之。射向袖三枚。聊寄「後方」射融之跡
掲焉也」。*源平盛衰記「三三、源平水嶋軍事「能登守教
経は、紺に白き糸にて、群千鳥を縫たる直垂に、紅威
(クレナヒト)の鎧に、長覆輪の太刀をはけり」
*泰衡征伐物語「栗戸太郎は、大岡山をこへんと心ざ
して、大高の宮の前をすく。紅おどしの鎧黒馬にの
れり」 [園圃(園)之] ②

くれないさくくれないなる「[紅菊]「名」 ①紅色花の菊。
[季秋] ②(襲(かさね)の色目の名。表は紅、裏は
青。秋用いる。*藻塩草一八「春冬の絹の色々、衣色
目ハ四季并月々略九月略くれない菊ハおもて
紅うら青」

くれないきぬくれないなる「[紅絹]「名」 紅色の絹。*落
筆「三、くれないぬのきぬ、茜染草(あかねそめく)さども
出し給へば、ひとへにかく構へ給ふことも知り給
はで」

くれないこうしくれないなる「[紅格子]「名」 練貫(ね
りぬき)の一種。紅色の地に格子の文様を織ったも
の。高貴の女房の着用。こごし。*御供古実「織物
紅かうし御ゆるりに候」

くれないざくらくれないなる「[紅桜]「名」 ①紅色の桜の
花。*御湯殿上日記「文明」〇年二月二日「御庭の
くれないざくらさかりにて」。*言集集「散りて猶く
れなぬ濃き色は残ると見えてつじ咲くなり」 ②
襲(かさね)の色目の名。表は紅。裏は紫。春に用い
る。*藻塩草一八「春冬の絹の色々、紅桜ハ面紅裏
紫」

くれないしほりくれないなる「[紅絞]「名」 紅色の絞りを染
め。べにしほり。くれないまきぞめ。*随筆「守貞漫
稿」一七「昔も紅巻染と云あり布を糸にて巻て紅染に
して後糸をとき退くれば今云紅絞也」 [園圃(園)之] ③
くれないしすくれないなる「[紅縞子]「名」 紅色の縞子。
*浄瑠璃「多し物語上「さもしんしやうに染めなし
たるくれないしすのひたたれに、小さくらおどし

のよろひきて」 [園圃(園)之] ④
くれないすじくれないなる「[紅筋]「名」 織物の一種。紅
の横筋文様を織り出した錦または綾。*御供古実「紅
筋の事。男は十四五才まで用ひ、又、女中は四十、五
十にても、人によりて御用ひ候」。*日葡辞書「Curena
bro(クレナイスズ)「訳」真紅のごとき赤い縞(し
ま)」*和訓栞「くれないぬのすぢとは、惣してねりぬき
を、地色何すぞ」くれないなる「[紅裾濃]「名」 染色の名。衣
または鎧(よろい)などで、紅色を上の方は薄く、裾の
方は濃く染め出したもの。*平治「下、頼朝義兵を挙
げらるる事「秀衡、紺地の錦の直垂に、くれないぬすぢ
ごの鎧、金作りの太刀をそへて奉る」。*義経記「五、吉
野法師判官を迫ひかけ奉る事「判官その日の装束は
赤地の錦の直垂にくれないぬすぢの鎧に白星の兜の
緒をしめ」 [園圃(園)之] ⑤

くれないそめくれないなる「[紅染]「名」 紅色で染めたも
の。また、その染物。*宇津保「内侍督「唐の御衣など
染めさせ給ふ。御紅ぞめは」。*和泉式部集上「岩つ
つじ折りもてぞ見る背子が着し紅そめの衣にたれ
ば」。*扶桑略記「欽明三年四月十五日「時彼妻着紅
染装ハ今云桃花裳也」其令「生子名「伎都爾」」
 [園圃(園)之] ⑥
くれないつじくれないなる「[紅纏]「名」 衣(きぬ)の
表裏の襲(かさね)の色目の名。表は紅または蘇芳、
裏は薄紅。一説に、裏は青。*女官御鈔「春冬のきぬ
の色々略くれないぬのつじハおもてすうらうらうす
くれないぬ」*藻塩草一八「春冬の絹の色々くれない
ぬのつじおもてすうらうらあはせ」

くれないにおい(くれないぬのはひ)「[紅包]「名」 襲(かさね)
の色目の匂いの一種。女房の装束または懐紙などの
襲に用いる。上着の紅を濃く下着を漸次薄くし、最
下を白とする。くれないぬのにおい。*女官御鈔「春冬
のきぬの色々略くれないぬのはひのきぬハうへく
れぬにうす紅をかさぬ」

くれないの野(の)「[紅]「名」 ①紅の色の意で、いろ
にかかぬ。*万葉「四六八三「言ふことのかしき園
そ紅之くれないぬの色」にな出でを思ひ死ぬとも大
伴坂上郎女」。*古今恋三六六一「紅の色には出で
じ隠沼(かくれぬ)の下にかよひて恋ひは死ぬとも
」。*紀友則「統古今恋一、九六〇「紅の色にうつりて
恋ひぬとも涙のしるく見するなりけり」坂上是則」
②紅色がうすいところから「浅あさ」を介して、地
名あさはの野」にかかぬ。*万葉「一一二七六三「紅
之くれないぬの浅葉の野らに刈草(かるかや)のつか
の間も我を忘らすな作者未詳」。*統後撰「恋四、九
二六くれないぬのあさはの野らの露の上に我が敷く
袖ぞ人などがめそ藤原家隆」。*新拾遺「恋二、一〇
一四「我が袖はかりにも干めやくれないぬのあさはの
野らにかかぬ夕露式子内親王」」 ③紅花をふり出

結蝶鳥追(雪駄直)序幕(ええ忌(いめ)えまし、折角吾代のみしろ)にしようと思つたを『いらざる奴がうせたばかり、とうとう仕事はぐれ蛤(ハマグリ)』
〔園圃〕グレハマグリ 園圃

くれはまつり【呉服祭】名 大阪府池田市にある呉服神社(くれはじんじや)で行なわれる陰曆九月一日(現在、二月八日)の例祭。前日に行なわれる近くの穴織神社(あやはじんじや)の穴織祭(あやはまつり)とともに一連の祭礼として知られる。〔季・秋〕・俳諧・増山の井九月、呉服祭 十八日、あやはまつりは十七日也。津の国池田にあり。〔俳諧・太紙句選〕秋、きりはたりてうさやうさや呉服祭 〔園圃〕

くればらい【ばらひ】暮払【名】掛代金(かけだいきん)などを年末に払うこと。また、その支払。〔園圃〕

くれびき【博引】名 樽を鋸(のこぎり)で挽(ひ)くこと。また、それを業とする人。*実隆公記「大永四年一月三日、造作大工兩人来、をカ引一人、博引二人八博引二百支、皆引之了」*高山文引(天文二三年)・奥院興隆作事入目日記(大日本古文书三・五一)「一次御供所造立之事略博引百十工」

クレピス【名】(英 Krebis) ギリシア神祇で、基壇の周囲に台座のようにめぐらした最下の階段。普通三段からなり、最上の床面にあたるのをステュロパテスという。

くれびと【呉人】名 中国の南北朝時代(四三九—五八九)・建康(南京)の地に都を置いた南朝の宋・齊・梁・陳の国人を、古代の日本人が呼んだ称。*古事記「下」此の時、呉人(くれびと)参渡(まゐりわた)り来つ*書紀「雄略一四年三月、臣連に命せて呉の使を迎ふ。即ち呉人を楢隈野に安置(はむべ)らしむ」〔園圃〕

くれふさがる【暗塞】自ラ四「くれふたがる」暗塞」に同じ。*続古事談「五」けふり満ちみて、王宮の内くれふさがりぬ」*名語記「六」寒中のくれふさがりたる日をしみたりといへる」

クレプス(Sir Hans Adolf Krebs サールハンスリアドルフ) 生化学者。ドイツに生まれ、イギリスに帰化。細胞の物質代謝に関する「クレプス回路」を提唱。一九五三年ノーベル生理・医学賞を受賞。一九〇〇年生。〔園圃〕

ふさがる。*前田本枕二九「いまはしめていふべきことには、文といふものならましかば、いかにいぶせく世の中くれふたがりておぼえまし」*大鏡「六」道長下「冷泉院の御世となりてこそ、世はくれふたがりたる心地せしものかな」*増鏡八「あすか川「その日の西(とり)の時にかくれさせ給ひぬ。院の中くれふたがりて、闇に迷ふ心ちすべし」 〔園圃〕クレフタガル 〔園圃〕

くれぶね【博船】名 樽を運送する船。特定の船型を意味しない。江戸時代以降、材木船と汎称される。*西野文書「從他國塩井博船着岸時」*山家集「中」くれぶねよ朝妻たり今朝なせ伊吹の嶽に雪風巻(しま)くめり」*和漢朗詠集「五」江湖川船之部くれぶね略あさつま山によめり。くれと云木を積舟の名なり」

くれへぎ【博剣】名 丸太の材木を鉋(かんな)で削ること。また、それを業とする人。*浮世草子「小夜嵐三」はや見るがうちにもささぎ、くれへぎなども備はれ、壁塗り番匠のひまなき」

クレペリン(Ernst Kraepelin エミール) ドイツの精神医学者。プントの心理学を基礎として、精神病の分類体系化を行なう。近代実験精神病学を建設し、クレペリン検査の端緒を開いた。主著「精神医学概論」(一八五六—一九二〇) 〔園圃〕

クレペリンけんさ【検査】名 クレペリンが実験心理学の成果として用いられた連続加算による作業検査。性格検査として用いられる。〔園圃〕

くれまざれ【暮粉】名 暮れ方の暗さに紛れること。また、そのような時刻。*浄瑠璃「卯月の紅葉」中壁を破って逃げ出略このくれまざれに早ふ早ふと言ひければ」

くれまたき【暮風】名 暮れるにはまだ少し間のあつ時分。日没前のひととき。*俳諧「夜半更句集」暮まつき星の輝く枯野かな」〔園圃〕

クレマチス【名】(英 Clematis) キンボウゲ科センニンソウ属植物の総称。世界の温帯地方に一五〇—二〇〇種分布し、日本にもセンニンソウ、ハンショウヅル、テッセン、カザグルマなどがある。園芸上は、鉢植え・花壇・切り花用に栽培される大輪咲きの種類や、カザグルマテッセンの改良品種をさしている。〔園圃〕

クレマンソー(Georges Clemenceau ジョルジュ) フランスの政治家。急進社会党の闘士として代議士に当選し、議院演説によって多くの内閣を倒し、「虎(とら)」とあだ名された。一九〇六—〇九年首相就任。第一次世界大戦中再度首相に就任し、戦争を勝利に導き、パリ講和会議ではフランスの全権となり、ドイツに天文学的数字の賠償金を要求した。(一八四一—一九二九) 〔園圃〕

くれみくさ【暮見草】名 心をいう。夕見草。*莫伝抄「花と月なくば何をかくれみ草山の外にも雲のあれども」*善庵尺四「暮見草(クレミグサ) 心を云」

くれむわち【暮六】名 昔の時刻の名。暮れの六つ時、その刻限に鳴らす鐘。ト明け六つ。*雑俳「へらす口不角撰」暮六の鐘にも散らぬ花の友」*浄瑠璃大経師昔曆中「二親もない奴(やうやう)伯父が太平記の講釈、暮六つから四つ時迄口をたいたいて」*談義本「風流志道軒伝」三「ふらりと居眠(いねむり)の、寝耳(ねみみ)はいる暮六も、鐘は上野が浅草を」

クレムリン(英 Kremlin ロシア語ではクレムリンskremlin、城砦の意) 名 中世、ロシアの各都市にあった城砦。クレムリンきゅうでん(宮殿)の略。転じて、ソ連政府またはソ連共産党の意に用いられる。〔園圃〕

クレムリンきゅうでん【宮殿】ソビエト連邦、モスクワの中心部にある宮殿。イワン三世により建設され、一七一三年ペテルブルグ遷都までロシア皇帝の居城。周囲を城壁に囲まれる。現在はソ連政府の諸機関がある。クレムリン。〔園圃〕

くれめす【呉召】自ラ四「呉れる人を敬つていう語。下さる。*浄瑠璃「平家女護島」二「娘よ妹よ、とせろ、かくせるときや、りんによがってくれめせかしと、ほろと泣たる可愛さ、都人のごさんすより、りんによぎやアってくれめすが、身にしみわたると語らるる」 〔園圃〕相手に物事を頼むことば。ください。(くれめせ)貸してくれめせ」福岡県山門郡900(くれめさ)上総03

クレメンス(Clemens) ギリシアの神学者。師パンタノスのあとを継ぎ、アレクサンドリア教を主宰。信仰を基礎とする知識(グノーシス)の成立を説く。主著はギリシア人への勧告「ストロマテイス」など。(二五〇頃—二五頃) 〔園圃〕

クレメンス(Clemens) ローマ教皇の名の一つ。〔五世〕第一九六代ローマ教皇(在位一三〇五—一三二四年)。フランス王フィリップ四世の圧力によって、居をアビニオンに移し、アビニオン掬囚の最初の教皇となる。(一二六四—一二七四) 〔七世〕第二二二代ローマ教皇(在位一二三三—一二三四年)。メディ

チ家出身。皇帝カール五世と抗争し、ローマを占領略奪される。のち、イギリス王ヘンリー八世とも争い、英国教会をローマ教会から分離させた。(一四七八—一五三四) 〔二世〕第二四六代ローマ教皇(在位一七〇〇—一七二一年)。スペイン継承戦争に介入して、失敗。フランスのジャンセニスムを抑圧した。(一六四九—一七二二) 〔四世〕第二五二代ローマ教皇(在位一七六九—一七四四年)。フランスの圧力によって、イエズス会を禁止した。(一七〇五—一七四四) 〔園圃〕

クレメンティ(Clemente) ムツィオー) イタリアの作曲家。ピアノ、教育家。近代的なピアノ演奏法を創始し、その門下から俊秀を輩出。ペーテンにも多大な影響を与えた。(一七五二—一八三二) 〔園圃〕

クレモナ(Cremona) (クレモナ) イタリア北部、ポエ川沿岸の古都。一六一—一八世紀、アマティ、ストラディバリ、ガルネリなど、バイオリン、チェロ製作の世界的名工を輩出したことで有名。また、クレモナで製作された名器を総称していることもある。〔園圃〕

クレモナ(Cremona ルイジ) イタリアの数学者。射影幾何学の教科書著作によってイタリアの幾何学教育に大きな影響を与え、また三次曲面論、曲線変形論などの重要な研究を行なった。(一八三〇—一九〇三) 〔園圃〕

くれや【名】遊郭をいう、盗人仲間の隠語。「特殊語百科辞典」

くれやす【形口】因くれやすし「形口」日の暮れるのが早い。早く夕暮になる。〔季・冬〕*新勅撰冬「四三四」くれやす日かずも雪もひさびさふるみむろの山の松の下折れ(藤原道家)・俳諧「梅翁宗因 発句集」冬「暮やすしこんな事なら、百年も」*末枯「久保田万太郎」暮れ易い日は、もう壁や障子の隅々に、深い、暗い、影を畳みかけた。〔園圃〕

くれやど【名】乞食などを泊まらせる下等な宿。木賃宿よりも更に下等なもの。くれ。*歌舞伎「四天王」櫓礎序幕「悪いを承知で引摺り込む、くれ宿(ヤド)の女あるじ」*随筆「守貞漫稿」四「くれ宿は他国に云木賃宿の類にて、又異也。住居の背に乞士教戸の長屋を建て、一字表口六尺奥行九尺計也。乞士を泊る也。一夜銭三十六文也。長屋には古畳をしき、土鍋一口を付すのみ。夜具及び他物を貸す。是を名付けてくれ宿と云」*歌舞伎「小袖曾我 齋藤(十六夜清心)二幕「片輪者を買込んで鎌倉へ売る見世物師地獄婆(はば)アと名の高い、何でも引込むくれ宿」

くれやみ【暗闇】名 心がくらんで途方にくれること。くらやみ。*梨花「月の宴」宮はあはれにいみじと

などを用いるが、白抜きの上「吉」などに対して、黒の上「吉」などを用いて、白抜きより上位を表わす。できばえがこの上もなくよいことを表わす語。黒上吉。*随筆・劇場・観劇鏡下・下・上・親仁形花車形之説「此両役も古代は名人ありて、既中古沢村源次郎などは花車形にて黒(ク)の上上吉に至りし也」

くろ【名】昆虫「こおろぎ(蟋蟀)」の異名。*物類称呼「二、鼯馬いとど略(近江)にて、くろと云これ古くはろぎといひし物也」(因)①煮たきする設備。かまど。三重県度会郡610 香川県822 昆虫、こおろぎ。香川県610

くろ【名】盗人仲間。隠語。①手袋をいう。「特殊語百科辞典」②銅貨をいう。「隠語輯覧」③ほくろをいう。「隠語構成様式并其語集」

くろ【名】(因)①相手に物事を求めることば。「おれに一つくろ」(あ)ちへ行つてくろ山形県南置賜郡・福島県河沼郡041 茨城県050 栃木県211 群馬県群馬郡225 千葉県印旛郡261 神奈川県282 長野県58 岐阜県郡上郡041 愛知県中島郡038 (くろ) 福島県相馬郡04 伊豆大島304 岐阜県益田郡539 ②相手と物事を与えることば。あげよう。やろう。三重県度会郡610

くろ【名】(くろ)(群)の変化した語か。小高くなっている草むら。草木のこもり茂っているところ。*浮世草子・好色一代男「四・二(刑)うばら」山樞(くちなし)のぐろのもとにふして。*一目玉録「三川の西の群(グロ)の中に」(因)①いばらや雑草などの茂った草むら。和歌山県伊都郡044 大阪府南河内郡042 鳥根県邑智郡柏淵712 岡山県吉田郡731 鳥取県八頭郡016 ②物の集まり。人がぐろになつち山口県柳井711 愛媛県宇和島郡 高知07 ③人家の集落。部落。山口県豊浦郡07

くろ【名】(名)(形動)おろかなこと。ばか。愚鈍。*本朝文粹「一〇・古廟春方暮詩序(大江)以言性」是愚魯。雖慙鳥雲之嘲。*明衡往来下本。納言昇首之乎。愚魯當仁、其故如何。*撰本願念仏集「上古賢猶以如此。末代愚魯寧不遵之哉」。*蘇轍東方書生行。東方書生多愚魯。閉門誦書口生土」(因) 園田 園田 園田

グロ【名】(形動)(グロテスク)の略。グロテスクなさま。また、その物や人。*見知らぬ人(真船豊)「いん、あのお父さんの肖像よ。見れば見るほど、お父さんのグロの特徴が出るんだもの」*園田園石坂洋次郎「わが顔は無事なれと念うが他人の顔となると少し位グロなのを喜ぶ心理がない訳でもない」(因) 園田 園田 園田

グロ (Antoine Jean Gros アントワーン・グロス) フランスの歴史画家。戦争画を多く描く。代表作は「ヤッファのペスト患者」「パンテオンの天井画」など。(一七七一—一八三五) (因) 園田 園田 園田

くろ【名】(名)(魚)①めじな(目仁奈)。鳥根県浜田028 ②あいなめ(鮎並)。あぶらめ。兵庫県美方郡諸寄028

くろ【名】(名)(黒和・黒蜜)①黒ゴマであること。また、黒ゴマごまのすったものであえた食べ物。②イカをその黒と塩とであえたもの。黒作り。*咄本・醒睡笑「三、鳥賊(い)かをくろるあへにすたまはる処へ、人も来れり」(因) 園田 園田 園田

くろ【名】(名)(黒)黒みを帯びた赤色であるさま。*西洋道中膝栗毛(仮名垣魯文)八・上「くちばしはからす天狗のごとくくろあかくながき手(の)べ」*草枕夏目漱石「二、草のなかに、黒赤い地が見えたり隠れたりして」(因) 園田 園田 園田

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

くろ【名】(名)(黒)黒い。黒い。また、その色の袍(ほう)。*尾張本今鏡(腹)の御子「ただ人の五位あけの衣にてうるわしくはあるべきを」

